

## ～IBDに合併する肛門疾患まで 一貫した診療を可能に～

IBDセンター長の三枝直人先生にお話をうかがいました (編集部)



地下鉄桜通線「太閤通」駅2番出口より徒歩2分

### 土曜日も平日と同様に診療

みなさん、こんにちは。CCJAPANで「りきゅーこうじゅう」を連載していた三枝です。私は増子記念病院のIBDセンター長として炎症性腸疾患（IBD）の患者さんを診療しています。

当院は名古屋市の中心部に位置し、近隣の基幹病院と連携しながら地域医療に貢献しています。また、平日の昼間に通院が難しい患者さんに対し、月曜日の夕方や土曜日の診療にも注力しています。

### 排便障害に悩んでいませんか？

IBDはたびたび排便障害を引き起こし、患者さんの約半数にIBS（過敏性腸症候群）が合併するという報告もあります。下痢はそれ自体が痔のうや裂肛、痔核などの病変を来し得るので注意が必要です。また、患者さんは肛門出血を主訴として来院されることもありますが、これが果たしてIBDの増悪によ

る大腸病変からのものなのか、あるいは肛門病変からの出血によるものなのかをきちんと鑑別しなければなりません。

当センターではダブルバルーン小腸内視鏡などを除き、ほぼすべての腸管精査法が可能です。通常の内視鏡検査はもちろんのこと、カプセル内視鏡（小腸・大腸）やCTコロノグラフィ、MRIなどIBDの診療に必要な検査機器が揃っています。また、土曜日も平日と同様に検査を行えるので、平日の来院が難しい方はどうぞお気軽にご相談下さい。

### 臨床的寛解と内視鏡的寛解の違いとは？

IBDの治療は分子標的薬の登場で劇的に変化しました。しかし、入院率や手術率が減少した一方で、近年はがん化の問題が重要視されています。

潰瘍性大腸炎は、活動性の持続が「がん化」につながるので注意しましょう。ご自身は「症状がない＝寛解」と感じていても、内視鏡で検査を行うと、大腸粘膜にしっかりと炎症があるケースも少なくありません。自覚症状がないからと油断せずに、治療を継続することをお勧めします。

クローン病のがん化はおよそ8割が直腸肛門病変によるものです。また、それらの多くは肛門狭窄を合併しています。直腸肛門狭窄がある場合、年に一度は麻酔下での観察・生



検査中の様子 (写真提供：増子記念病院)。「スタッフが臨機応変に協力してくれるので、緊急の検査も対応可能です (三枝先生)」



広大なスペースの内視鏡検査室には最新の設備や画像診断装置が導入されている

検を是が非でも受けて下さい。  
ご自身に合う医師を探しましょう  
IBDは、1〜2回の診察だけではわから

ないことがたくさんあります (いや、わからないことだらけです)。長く付き合う病気で、から、医師との相性も重要ですよ。すでに主治医と信頼関係を築けている方は別として、その関係に満足できていない場合は (主治医あるいは病院を 変えても良い) と思います。

IBDの患者さんはお若い人が多いですから、私個人としては、患者さんの職業や妊娠希望など社会的背景を治療に反映させるべきと考え、ライフスタイルを重視した診療を念頭におくようにしています。働ける人社会の財産ですから、ひとりでも多くの患者さんが学業や就労に困らないよう、サポートせねばなりません。

当院には腎不全のために人工血液透析を行っている患者さんがたくさん通って来ます。このため、同じ透析療法でありIBDに保険適応がある「顆粒球除去療法 (GMA)」の施行環境が割と整っています。この治療法は薬物治療に比し、重い副作用が少ないのが利点ですが、特に就労や就学中の患者さんには時間的制約が問題となることが多いと思います。適応はあくまで当科での判断となりますが、土曜日の施行など他の医療機関に比してある程度フレキシブルに対応が可能と思います。一緒に治療を続けながら、良い未来図を描いていきましょう。



「IBDの患者さんは長期的に通院される方が多く、経過中のさまざまな症状の変化にも対応していかなければなりません。そのため、つねにコミュニケーションをとるよう心がけています (看護師の徳永さん：右)」

### 増子記念病院

住所 & TEL 〒453-8566  
名古屋市中村区竹橋町35-28  
052-451-1307 (代)

診療案内 IBDセンター  
診療開始時間 (完全予約制)  
火・金・土 9:00~12:00  
月 17:30~19:00

外来予約受付 052-451-1541  
その他、詳細は公式HPをご参照下さい  
URL <https://www.syusaikai.com>